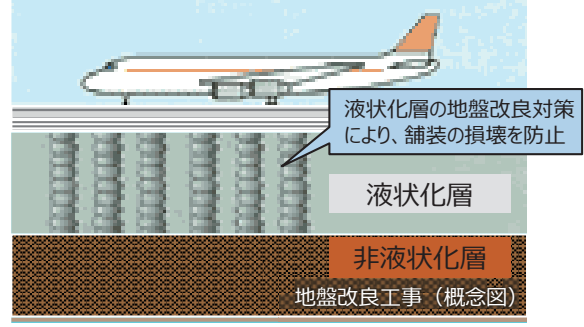
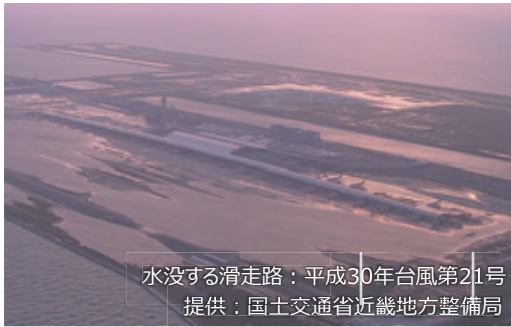


# 航空輸送上重要な空港施設を守る

(大阪府泉佐野市／宮城県名取市)

事業者：関西エアポート（株）／国土交通省



**対策名：** No.129 航空輸送上重要な空港等に関する緊急対策（基本施設）

**事業名：** 関西国際空港防災機能強化対策事業／仙台空港の滑走路等耐震対策

- ポイント**
- 護岸の嵩上げ・排水機能強化による浸水対策事業を実施
  - 滑走路等の耐震対策事業を実施
  - 航空ネットワークの維持、背後圏経済活動の継続性確保に寄与

## 地域の概要・課題

平成30年9月に発生した台風21号の影響で、関西国際空港では、波高が強風により5mを超え、空港島の護岸を越渡し1期島内で広範囲の大規模浸水が発生し、滑走路等の水没に伴う航空機の離着陸不能、ターミナルビルの一部機能停止等の被害が発生しました。

また、仙台空港では、3か年緊急対策実施前の平成30年の時点において、航空輸送上重要な空港※に求められる「発災後3日を目標に定期民間航空機の運航が可能となる機能」である滑走路全長（3,000m）の耐震性が確保されておりました。

## 事業の概要

関西国際空港においては、浸水した1期島の護岸のかさ上げ工事を令和元年から開始し、令和2年8月からは消波ブロック約4万個の設置を開始しております。これにより、令和3年秋頃には、最近の暴風傾向も加味した50年に1度の高波にも対応できる護岸設備が完成する見通しです。また、緊急対策として令和元年6月末までに大型排水ポンプ車の導入を行うなど、排水機能強化についても実施いたしました。

また、仙台空港については地盤改良工事を行い、令和2年度に滑走路全長（3,000m）の耐震性が確保されました。

## 【見込まれる効果】

○「空港内への浸水の防止」

護岸の嵩上げ及び排水機能の強化により、一定レベルの高潮・高波に対し空港内への浸水を防止し、航空ネットワークの維持、背後圏経済活動の継続性確保に寄与します。

○「滑走路等の液状化の防止」

滑走路全長（3,000m）の耐震性を確保することで、地震後の早期復旧が可能となり、緊急物資等輸送機能に加え、航空ネットワークの維持、背後圏経済活動の継続性確保が可能となります。

※緊急輸送の拠点となる空港のうち、特に、航空ネットワークの維持、背後圏経済活動の継続性確保において重要と考えられる空港で、以下の13空港

成田国際空港、東京国際空港、中部国際空港、関西国際空港、大阪国際空港、新千歳空港、仙台空港、新潟空港、広島空港、高松空港、福岡空港、鹿児島空港、那覇空港

II-1 電力等エネルギー供給の確保

II-2 食料供給、ライフライン、サプライチェーン等の確保

II-3 陸海空の交通ネットワークの確保

II-4 生活等に必要となる情報通信機能の確保